

小坂 様

お便りありがとうございます。

私は、もともとは、高校生物教科書の「間違い」を指摘するつもりでこのレポートをまとめ始めました。その後、インターネット上に公開した後も気になっているところを調べたり、いただいた質問に対する回答を考えたりしているうちに、この「間違い」は、どうも高校の生物教育の世界だけの話ではないことに気づくようになりました。

考えてみれば当然のことなのですが、どの教科の教科書にせよ、そのよって立つ学問分野があり、その学問分野の研究成果がそれぞれの教科書の記述内容に反映されているわけです。したがって、バックボーンにある学問分野の研究成果に「間違い」があるのなら、教科書の内容も間違ってしまうということになります。

私は、自分の書いたレポートの内容が正しいと確信していますから、私の立場からすれば、生理学の述べている内容に「間違い」があることになります。具体的には、レポートの「付録5」以降に記載しました「神経繊維=ケーブル理論」が、その「間違い」の最たるものだと考えています。

私の主張するところは、興奮の伝導のしくみを「電流」で説明しているものはすべて間違い、ということにつきます。それがたとえ専門書であっても、大学の研究者が述べておられることであってもです。ご質問は、「教科書のみならず、そういった専門書などにも根本的な間違いがあるものなののでしょうか?」ということなのですが、専門書がすべて正しいなどという保証や根拠は、どこにもないと思っています。

科学の歴史をひも解いてみれば、それまで正しいと考えられてきたことが新しい実験事実や理論によって覆されてきた事例が、数多く見られます。すべての理論が正しいものばかりというわけではないのです(そういう観点からすれば、私のレポートも間違っている可能性がないとは言いきれないことになります)。

図書館に行って日本の歴史に関する書物を探せば、学会が認めている「定説」に異を唱えておられる方の書物がいくつも見つかります。それらの書物を読んでも、「定説」とされているものよりもその書物の著者の述べておられることの方が正しいように思われる場合も少なくありません。しかし、それでも「定説」はそう簡単には覆されません。学会の「権威の壁」が立ちふさがっているからです。

私の主張が正しいのか間違っているのかの判断は、小坂 様 にお任せします。これからの時代を生きていかれる若い世代の研究者が、「権威の壁」に押しつぶされることなく、自分の信ずるところに向かって研究を続け、新しい発見をし、輝かしい成果を挙げられることを期待してやみません。

2015年2月18日

しのたけ 拝